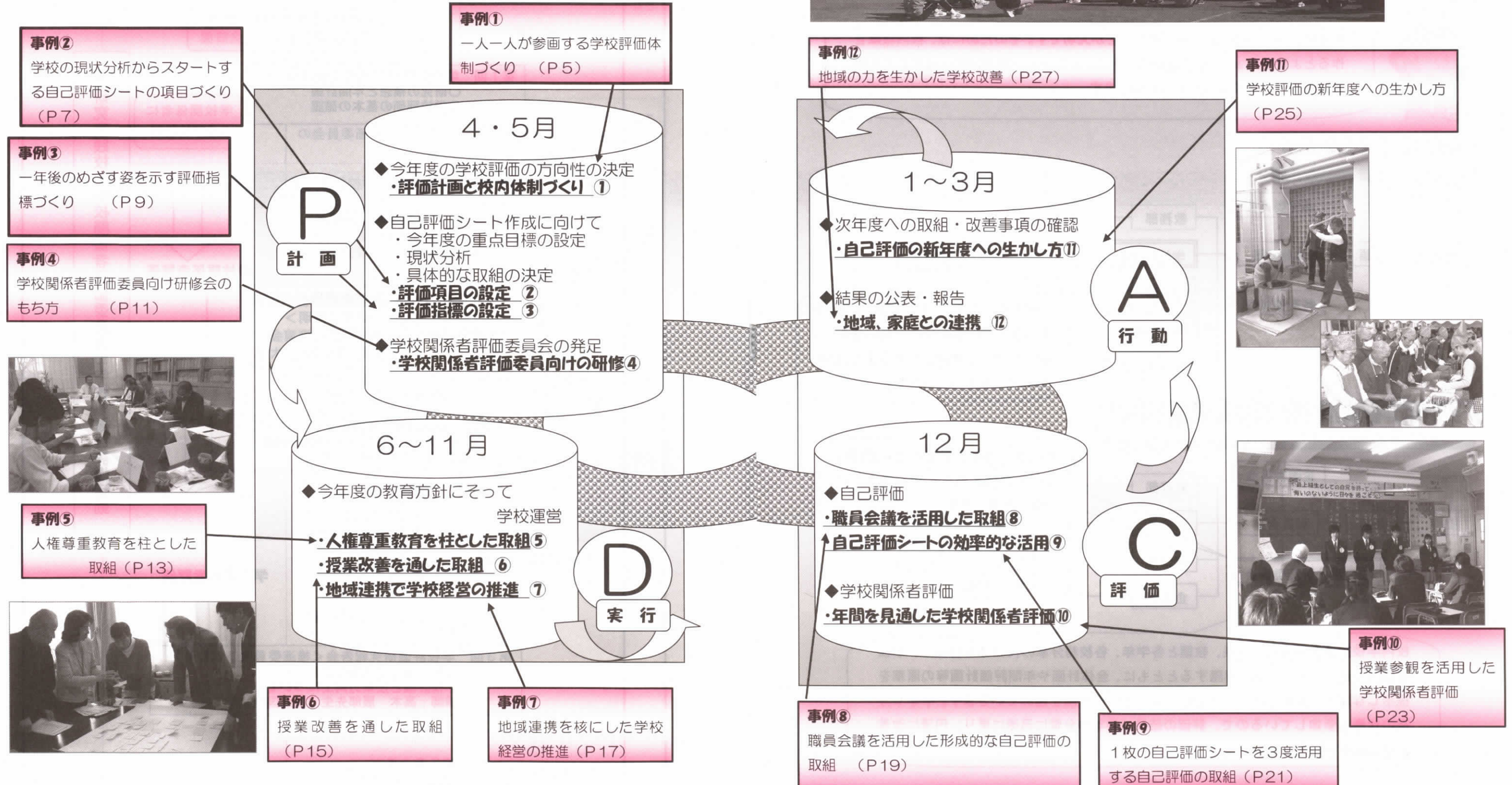
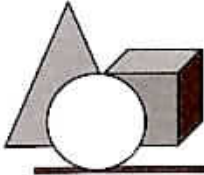


Ⅲ 実践的な推進に向けて

1 学校評価の年間サイクル

実践的な学校評価の年間サイクル
～一人一人の力が学校を変える～





【P：今年度の計画づくりを始めよう！】

事例①一人一人が参画する

学校評価体制づくり

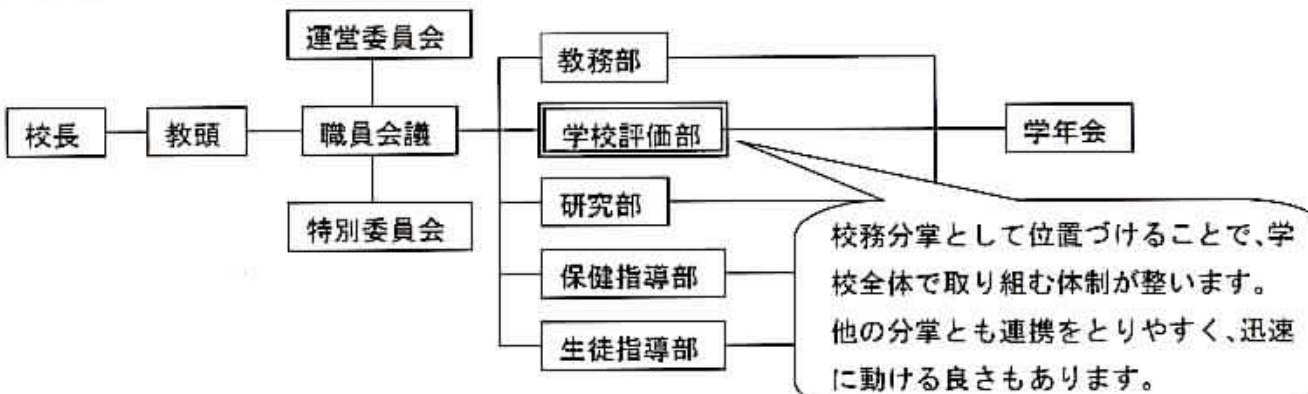
KEY WORD

- ・全教職員で！
- ・継続的に！

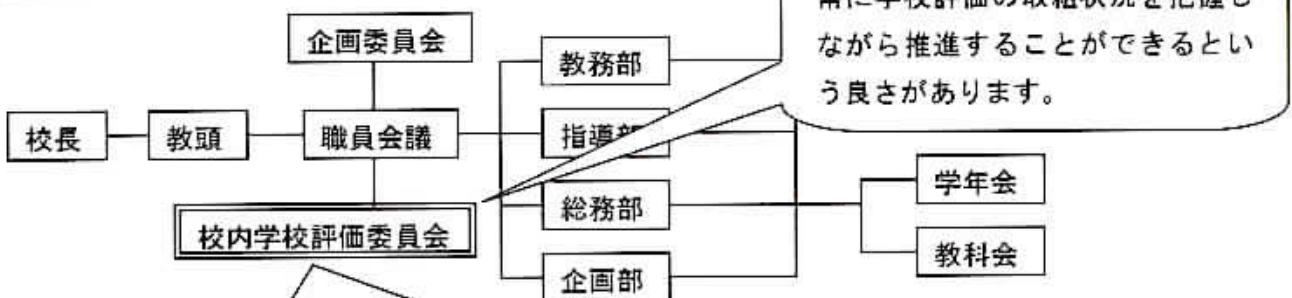


学校評価は、全教職員で取り組むことが大切です。そのためには、校内組織を作るとよいでしょう。校内組織づくりと、一人一人が学校評価に参画するための方法には、次のようなものがあります。

校務分掌として位置づける



校内学校評価委員会などの新しい組織を編成する



校内学校評価委員会は、校長、教頭と各学年、各校務分掌の代表等で組織し、学校評価の推進について検討・協議するとともに、全体計画や年間評価計画等の原案を提示しながら、全教職員の共通理解のもとに学校評価を進めていきます。学年や分掌の代表が参加しているので、評価の結果が学年や分掌に迅速に戻り、円滑に改善が図られます。

一人一人が参画するための工夫

例1 一人一人が学校の現状を分析する方法（P）

校内学校評価委員会が中心となり、学年会や職員会議等の際に行うことができます。

- 本校の強みと課題を全教職員で共通理解するために、付箋を使ったワークショップを行う方法があります。一人一人の思いを反映させることが可能です。（事例②参照）

例2 一人一人が授業改善プランを作る方法（P）

校内学校評価委員会が基本案を提示し、各教科会で検討します。

- 「授業をより良くするためのアンケート」を校内学校評価委員会の基本案をもとに各教科等で相談して作成し、日頃の授業について子どもたちの意見や感想を聞く方法があります。アンケート項目には「授業の学習目標はよくわかる」「授業の進み方はちょうどよい」「先生の説明や指示、板書はわかりやすい」「授業では、考えたり話し合ったりする時間がある」「授業中は、活動や作業等に熱心に取り組んでいる」などがあります。アンケート集計は教師一人一人が行い、結果を各教科会で分析し、それを校内学校評価委員会で集約して、それぞれの授業改善と学校全体の改善に生かします。

例3 一人一人が自己評価する方法（C）

教職員の自己評価をアンケートではなく、自己評価シートを作成して職員会議で行います。

- ①年度当初の職員会議において、校内学校評価委員会から、今年度の学校評価の全体計画についての説明が行われます。
- ②10月の学年会に自己評価シートと2色の付箋が配付され、本校の強みと課題について記入します。
- ③1週間後の職員会議後に、会議室に貼った2枚の模造紙に、一人一人が1週間書きためておいた付箋を貼って退出します。学校評価の評価項目ごとに本校の強みと課題に分けて貼ります。
- ④模造紙を校長室に掲示し、校内学校評価委員会が集約して自己評価資料とします。
- ⑤自己評価資料をもとに、学年会で改善策を話し合い、学年主任が集約します。
- ⑥校内学校評価委員会が自己評価シート（集約したもの）を完成させ、学校関係者評価の資料とします。



本校の強み

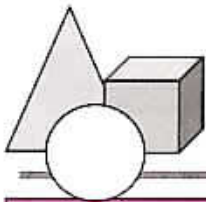


本校の課題

自己評価シート（集約したもの）

評価項目・評価目標	具体的方策	評価指標	本校の良いところ（長所）	さらに改善の余地があるところ	教職員から出た改善策等
1 学習習慣の確立 (学習指導)	*家庭学習の習慣化	*保護者や学習意欲の育成及び家庭での勉強	*基礎・基本による数学の計算力等の向上 *生徒用及び教師用学習意欲の育成 *「学習意欲」の育成で評価の観点を理解しやすい。 *テスト前、朝及び放課後の学習意欲の向上	*学期によるコマ数のカットが多すぎる。授業時間の確保が重要である。 *計画的な家庭学習、家庭学習の習慣化は各家庭の差が大きく、難しさを感じる。	*行事等の確保期間を見直し短くする。50分授業を確保する。 *宿題課題を出す。 *50分授業に授業の始末を早める。
2 日誌活動の充実 (教育課程・学習指導)	*実生活の中で生きて働く能力の向上	*科目科を中心として、各教科で日誌活動につながる内容を明確化			*総合的授業などを使ってマナーと併せた日誌活動の授業を（縦割対応）
3 授業評価による授業改善 (学習指導・学習評価)	*「学習意欲」を生かした力強い授業づくり	*「学習意欲」を活用した単元構想の工夫 *授業評価を生かした分かりやすい授業づくり	*「わかる工夫」した分かりやすい授業づくり *授業観望記録シートを活用した授業改善 *「今日の学習目標を明確化した授業」 *「明日学習計画で授業しなさい」。		*管理職の首長から授業や生徒の様子をもっとよく見る。
4 資料	*評価資料は1枚のA4紙に印刷				画について、全員の呼びかけ

学校の実態に応じて協働体制を確立するという視点を重視し、時間を確保する、研修の機会を設ける等、負担にならないよう全教職員で継続できる体制を確立することが大切です。



【P：今年度の計画づくりを始めよう！】

事例②学校の現状分析からスタートする 自己評価シートの項目づくり

KEY WORD

・ 全教職員で
共通理解！



学校評価を進めるためには、自己評価シートの作成が大切なポイントになります。そのためには、評価項目の設定が重要になります。評価項目の設定のためには、学校の現状を分析することが大切です。全教職員の思いや考えを付箋に記入して話し合い、学校の現状を把握する方法があります。

Step1

＜学校評価の視点提示＞



一人一人が付箋に記入します。

5～6人のグループに分かれて「子どもたちについて」「学校の運営体制について」「授業について」という3つの視点で、一人一人が付箋に記入します。プラス面「本校の強み」は青の付箋に、マイナス面「本校の課題」は黄色の付箋に書き出します。

Step2

＜視点に応じた意見交流＞



付箋を出し合い、意見交換します。

それぞれの付箋を項目ごとにまとめながら、模造紙に貼ります。考え方、感じ方が違った点等について、意見交換をします。

本校の子どもたちは、元気で明るいわね。

でも、あいさつができていないよね。

Step3

＜意見の整理と焦点化＞



まとめて表題をつけます。

似ている意見は、まとめてくくり、表題をつけます。

授業についての付箋がたくさんあるね。

どの教科でも、基礎・基本を確実に身に付けることが課題になっているね。



グループの代表が発表します。

Step4 <本校の課題の共有化>

全体会で、グループごとに模造紙にまとめた考えを発表し、意見交換を行い、学校の現状について共通理解を図ります。



「本校の強み」と「課題」

集められた付箋と発表をもとに、校内学校評価委員会で、細かい分析を行います。

本校の現状（校内学校評価委員会分析結果）

	生徒について	学校運営体制について	授業について
強み	<ul style="list-style-type: none"> 素直で人懐こい 元気で明るい 部活動に熱心 行事を盛り上げる 好きなことには進んで取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> 職員数が多い 協力し合える 保護者や地域を大切にしている いろいろな人の意見が聞ける 相談相手が多い 	<教師> <ul style="list-style-type: none"> 教材研究に熱心 積極的に研修に参加 専門性を追求 <生徒> <ul style="list-style-type: none"> 興味・関心が高い 授業に集中し、前向きに取り組む
課題	<ul style="list-style-type: none"> 言葉遣いが悪い あいさつができない 時間が守れない 自信がもてない 自主性がたりない 	<ul style="list-style-type: none"> 共通理解の徹底が必要 他学年の状況把握がしにく 役割分担が偏っている 	<教師> <ul style="list-style-type: none"> 教材研究の時間たりない 他の授業を見る機会が少ない <生徒> <ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本の習得が不十分 集中力がたりない

現状分析をもとに校内学校評価委員会が職員会議等に評価項目と改善策を提案します。

自己評価シート

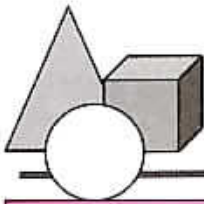
学校教育目標	ひとりひとりの個性を伸ばし、知・徳・体・意の調和のとれた人間性豊かでたくましい生徒を育成する。	評価の指標	評価
学校経営目標	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒が安心して、生き生きと学習し活動できる学校環境の整備と充実を努める。 ○生徒理解を深め、一人一人の特性を生かし伸ばす教育の充実を努める。 ○心の教育の充実、深化に努める。 ○学校、家庭、地域の連携を深め、健全な生徒の育成に努める。 		
今年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ○わかる授業、楽しい授業の研究 ○生徒会、委員会、部活動の活性化 ○居心地のよい学級、安心できる学校 ○学校からの情報発信、家庭、地域との交流 		
評価項目	具体的取組		
学習指導	基礎・基本の確実な定着をめざした授業を工夫する。 わかる授業、楽しい授業をめざして授業研究を行う。		
生徒指導	挨拶や服装等の基本的な生活習慣の確立を図る。		
人権尊重教育	他者を思いやる心や自尊感情を育てるために、道徳教育の充実を図る。		

「基礎・基本の習得が不十分」という課題から「学習指導」の評価項目を設定し、具体的取組を考えました。

評価指標を設定します。（事例③参照）



この方法で行えば、全教職員が学校の現状を共通理解し、学校改善に取り組むことができるようになりますね。



【P：今年度の計画づくりを始めよう！】

事例③一年後のめざす姿を示す 評価指標づくり

KEY WORD

- ・主語を意識して！
- ・より具体的な姿を！



自己評価シートを作成する際に、大切なポイントはいくつかありますが、評価指標がどのように設定されているかが、大きなポイントでもあります。

では、次の自己評価シートの評価指標AとBは、学校評価をする際にどちらが、より適しているでしょうか。

評価項目	具体的取組	評価の指標	評価
学習指導	進んで考える問題解決的な学習を取り入れ、授業改善を図る	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思考力や判断力の向上のため、教材の工夫に取り組んでいる。 ・一人一人が学ぶ楽しさを味わえるように、教材研究に取り組んでいる。 	A B C D
学習指導	進んで考える問題解決的な学習を取り入れ、授業改善を図る	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎時間の振り返りに自分の考えをこれまでの自分と比較して考えを書いている。 ・話し合い活動の中では、子ども同士で話し合いを整いで深めている。 	A B C D

お勧めは

Bです

では、なぜBなのでしょう・・・

○Aは主語が教師になっています。めざすべきものは成長した子どもの姿です。

主語はできるだけ、子どもに設定することをお勧めします。教職員を主語にすると、昨年度と比較して評価する際により厳しい目（「ここは取り組んだけど、まだまだだなあ」）で評価するなど、評価基準が変化し改善が見えにくくなるからです。（ただし、学校運営、地域、危機管理等の項目では、主語がそれぞれ違ってきますので、注意しましょう。）

○具体的な姿がそれぞれの教職員に思い浮かぶような指標が大切です。「一人一人が学ぶ楽しさを味わっている」と言われて、具体的にイメージする子どもの姿がバラバラでは、評価する際にも主観的で思いつきで評価してしまう可能性があります。教職員誰もが、共通してイメージできるように、一年後にめざすべき具体的な子どもの姿として設定します。

（主語が教職員、地域・保護者になっても具体的な部分は同じです。）



次に、具体的な評価指標はどのようにして作られるのでしょうか。
一人の思いや考えで作成しては、組織的な学校評価はできません。
ここでも、教職員「一人一人の力が学校を変える」という意識の基、学校の組織をうまく使って評価指標をつくることができます。次の取組を参考にしてみてください。

学校評価(自己評価)一年間の流れ

(1) 学校運営の重点課題の設定<4月>

- ①学校教育目標⇒経営の柱⇒今年度重点課題
- ②学校の課題の明確化と共通理解⇒職員研修
- ③「学校関係者評価委員会」設置と趣旨説明

(2) 1年後の目標設定と解決のための手段検討

① 自己評価シート評価指標作成<春>

② 計画に基づき(指標を目指し)学校運営を実践

③ 地域・保護者へ学校公開

自己評価<1月>

- ① 自己評価のための資料収集
- ② 児童・生徒・保護者アンケート(要づけ資料)
- ③ 学校説明会・懇談会から(保護者からの声を聴く)
- ④ 「学校関係者評価委員会」による自己評価結果の横断
⇒自己評価の精度を高める

⑤ 自己評価の結果を公表

方法⇒学校説明会、学校だより、学校評価特集発行、懇談会、地域掲示板、HP掲載

⑥ 学校運営改善への検討<2・3月>

⑦ 次年度計画作成

⑧ 教育委員会へ報告<3月>

自己評価シートのできあがり

全教職員で

2色の付箋を使って学校の強みと課題を整理します。

※ 事例②を参照



校内学校評価委員会で

課題をもとに評価項目を作成します。

校内学校評価委員会

各分掌、担当、学年から出てきた評価項目、具体的取組、評価指標を検討し決定します。

各分掌・担当・学年で

評価項目から具体的な手だて、取組を決定し、一年後にめざす子どもの姿としての評価指標を設定します。

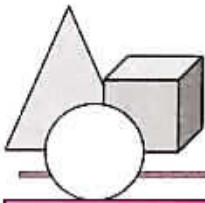
職員会議等を経て



評価項目、評価指標づくりを、校内学校評価委員会の一部の組織で作成するのではなく、学校全体で組織的に一人一人が関わることが大切です。



評価項目を受けて、各校務分掌担当や学年で分担して、事例②で出てきた具体的な意見をもとに評価指標の原案を作成します。



【P：今年度の計画づくりを始めよう！】

事例④ 学校関係者評価委員向け 研修会のもち方

KEY WORD

- ・教職員と共通理解！
- ・学校改善のために連携・協力！



開かれた学校づくりには保護者や地域のみなさんの協力が必要です。研修会を通し、教職員と共通理解をして学校改善のための連携・協力を図りましょう。

[準備資料 (例)] ■学校要覧 ■学校経営基本方針 ■前年度自己評価報告書 ■今年度自己評価シート
 ■主な年間行事予定表 ■学校だより ■保健だより ■PTA 広報誌 ■19・20 年度学校評価報告書 (冊子)
 ■学校評価ガイドライン [改訂] (文部科学省) 等

学校関係者評価 年間計画 (例)

4 月

学校関係者評価委員会を組織します。
(学校運営方針案等を学校関係者評価委員に送付すると効果的です。)

4～5 月

研修会 (例)

研修会とともに学校関係者評価委員会を開きます。
研修会に学校の教職員も参加すると、学校評価に対する理解がお互い深まります。

6～12 月

学校は、年度初めに立てた目標や具体的な計画を基に教育活動を実践します。学校関係者評価委員は学校訪問や意見聴取、各行事・授業参観等による評価の蓄積を図ります。

学校関係者評価委員会の発足

学校評価についての理解

学校の進捗状況の把握

学校評価理解の研修プログラム (例)： 研修時間 2～3 時間

第 1 部

< 講 義 >…資料を基に研修会参加者に説明をする。

(第 1 部から教職員も一緒に参加すると効果的)

- 1 学校評価の目的とは？
- 2 自己評価、学校関係者評価についての説明
- 3 実施方法とスケジュール
- 4 学校関係者評価委員の具体的な活動とは？



今回、ご参加いただいたみなさん (地域の方々) はこの役割を担う方々ですね。

学校関係者評価委員の方々に、内容をよく理解していただくことが大切です。
次のようなところをポイントにして説明しましょう。

- ・学校の運営や教育活動について理解していただくために「昨年度の重点目標、取組状況」「重点目標など具体的な目標や計画」「本年度自己評価項目」等を説明する。
- ・どんなことを評価するのか、内容を説明する。
- ・評価をするために、学校を見ていく観点について説明をする。
- ・学校運営の改善と協力のため、授業や学校行事・施設設備等を視察し、教職員との意見交換を行っていくことを説明する。
- ・取組状況の確認は、広報誌や HP などからも情報を集めることもできることを説明する。
- ・個人情報の取扱については、配慮していただくように説明する。

6～12月

「いつでも学校へどうぞ。」と言われても、仕事や地域での役割をもった方々が来校するのは大変です。学校関係者評価委員に学校を知ってもらう機会を主体的に設定することが大切です。

学校関係者評価委員が来校した際は付箋に意見を書いていただき現状を確認していくことができます。

(7～9月くらいに中間評価を実施した場合は、中間評価の結果について評価をします。)

1～2月

学校が準備した自己評価資料を基に、結果と改善方策について学校関係者評価を実施します。(評価の結果をとりまとめます。)

学校関係者評価の結果をふまえて、学校は改善方策の見直しをします。

翌年度の目標設定や具体的取組に反映されます。

学校改善のため連携・協力!



第2部

< 演習 >…意見交換による学校の現状理解(教職員も参加する。)

ここでは、学校関係者評価委員の方々と教職員で学校の現状の把握について確認します。評価が分かれた場合は、そこからさらに意見交換をして共通理解を図っていきます。



進め方

- ・5～6人の小グループに分かれますが「学校関係者評価委員のグループ」「教職員のグループ」をつくりましょう。
- ・「子どもたちについて」「学校の運営体制について」「授業について」一人一人が2色の付箋に学校の「強み」と「課題」を記入します。

- ・各グループでそれぞれの付箋を項目ごとにまとめながら、模造紙に貼ります。
- ・感じ方、考え方について意見交換をします。
- ・似ている意見はまとめてくり、表題をつけます。

- ・全体会を行い、各グループの報告を聞きます。
- ・「学校関係者評価委員だけのグループ」をつくったので、地域の方々は学校の現状をどのように把握しているのか教職員は確認することができます。
- ・「学校関係者評価委員だけのグループ」と「教職員のグループ」の報告を聞き、学校の現状理解について比べます。

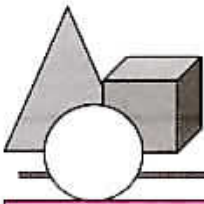
- ・評価が分かれた項目等について取り上げ、再び意見交換をします。
- ・教職員と学校関係者評価委員が強みと課題を共通理解し、共有化を図ります。

教職員と学校関係者評価委員との評価が分かれた項目については、意見交換をして日頃の思いを出し合ひましょう。話し合いで相互理解をしていくことが大切です。



研修の生かし方

- 学校関係者評価委員の方々は研修会で学校を見ていく視点の説明を受けているので、その視点を基に一人一人のファイルを用意して評価の蓄積を図るとよいです。
- 授業参観や行事の終了後、来校した学校関係者評価委員の方々に集まっただき、すぐに付箋を活用した意見交換を行っていきましょう。学校の現状について、どのように把握しているのか確認することができます。また、話し合いの場等を設定すると、子どもたちの姿、学校の様子等、共通理解の基で進めることができます。
- 取組の現状を把握したい時や学校関係者評価委員会を開催する時等、付箋を使用した意見交換会を設定してみましょう。教職員と地域の方々との共通理解ができます。グループの構成や進め方は、事例⑩や第2部の演習で紹介したものを、目的や場合によって使い分けてください。



【D：今年度の重点目標をめざして教育活動のスタート！】

事例⑤ 人権尊重教育を柱とした 取組

KEY WORD

- ・学校と地域が共に歩む！
- ・川崎らしさ！



川崎市は「川崎市子どもの権利に関する条例」や「かわさき教育プラン」に基づき「いのち・こころの教育」「人権尊重教育」を全ての教育活動の基盤に位置付けています。そのため、学校の自己評価にも人権尊重教育を評価項目に入れて教育活動の重点として進めていくことも川崎らしさとなっています。

平成 21 年度 自己評価シート

川崎市立〇〇〇学校

学校経営目標	◇わかる・楽しい授業 ◇様々な活動を支える人間関係づくり ◇地域・保護者とともに進める学校づくり			
学校重点目標	◇研究研修の推進 ◇ <u>人権尊重教育の推進</u> ◇指導体制の充実			
学校教育目標	評価項目	具体的取組	評価の指標	評価
自ら学ぶ子	人権尊重教育の充実	人間関係や言動を把握し、規範意識、自尊心の高揚、他者を思いやることの大切さを学ばせるために、心の教育の充実を図る。	互いを大切にしているような言葉遣いをしている。 自分や友達、身近な人々、自然を大切にしている。 子どもは、学校生活や友達について教職員に相談ができる。	
	研究研修の充実	校内研究の継続、推進を…		

○全ての人々が互いに人権を尊重し合い、共に生きる地域社会づくりをめざした教育活動を評価項目に入れることで、教職員に具体的な取組が意識され、共通理解を図ることができます。

○学校の教育活動や子どもたちの現状を地域の方々に理解していただき、共に人権尊重教育に対する意識を高めていくことができます。

豊かな人間性を、学校と地域が共に育む

豊かな心を育むための取組(例)

温かい人間関係は学校で行われる各教科の授業や全ての教育活動の基盤となります。学級や学年、学校全体の中で一人一人の大切さが認められていることを子どもが実感できることが大切です。子ども同士、教職員と子どもの中に温かい人間関係を築いていきましょう。

学校の掲示板を利用して、自分のよいところや他人のよいところを見つけ、お互いに伝え合うことにより、自己肯定感を高めたり、他の人を理解し、認めたりすることができます。来校者にも学校の取組が分かりますね。



人権に対する意識を高めていくには、学校も地域も人権尊重教育を理解していくことが大切です。教職員だけではなく、学校関係者評価委員の方々も、学校が重点として取り組んでいる人権尊重教育に対する理解を深めるような研修計画をたてることもいいですね。



「人権尊重教育と学校評価」研修(例) : 研修時間 2~3 時間

参加者…教職員、学校関係者評価委員の方々、地域の方々等

<人権尊重教育研修>

- 1 あいさつ
- 2 本日の研修会の進め方
- 3 人権尊重教育研修(人権尊重教育推進担当者等が研修を進める)
 - ・人権尊重教育について…「人権に関する知的理解」
 - ・人権尊重教育実践事例集等を使用し、参加体験型の人権尊重教育の研修を行う

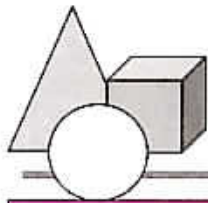
<学校評価研修>

- 4 学校評価の目的
- 5 自己評価、学校関係者評価について
- 6 実施方法と年間スケジュール
- 7 学校関係者評価委員の具体的な活動とは
- 8 意見交換会…学校の現状を共通理解する
 - ・本校の「強み」と「課題」について

学校が重点とする取組を理解していただいた後、学校関係者評価委員会を開催しましょう。



人権尊重教育研修会に参加しているので、学校が重点としている取組を意識した意見交換ができる。今後、学校が重点とする取組を学校関係者評価委員が意識していくことができる。



事例⑥授業改善を通じた取組

KEY WORD

- ・教師の意識改革！
- ・主役は誰？
- ・授業研究のスタイル！



なぜ、学校評価 ⇨ 授業改善なのでしょう。

授業を改善することで、どの子どもたちも安心して学習に参加することができるようになります。一人一人が学びの場をもつことにつながります。高まりのある、落ち着いた学校につながっていくのです。

つまり、授業改善することが、学校で抱えている子どもたちに関する諸々の改善、つまり学校評価につながるのです。そのためには、授業研究の工夫が必要になってきます。一人一人の教師が参加する授業研究のスタイルとはどのようなものか、そして、子どもたちにどんな力をつけさせることが大切なのでしょう。

ここでは、授業研究のもちかたを工夫している事例と、めざすべき子ども像を明確にし、授業改善に取り組んでいる学校の事例をお伝えします。

若い先生がやると良いよ。勉強になるから。

指導案つくるだけで疲れたな。

前回の授業の課題がどこに生かされているのかな。



- ・教室の後ろから参観する教師。
- ・子どもの学びではなく教師の姿だけをうかがっている。
- ・一人一人の子どもの学びの姿を見取らない。

- ・ベテランの先生が意見を言って終わり。
- ・何人かが言って終わり。
- ・自評10分。研究協議15分。
- ・「良かった良かった」で終わり。課題は何だったのか、分からないまま。
- ・感想で終わり。話し合いの視点は何か分からないまま。次につながる課題が見えない。
- ・協議の視点がはっきりしないので何を言って良いのか分からない。
- ・「どうしてこの単元を選んだのですか？」等、事前に指導案に目を通していない場違いな質問。

こんな授業研究していませんか？

- 1 研究授業は若い先生がやるもの
- 2 指導案検討に時間をかけすぎ
- 3 事前に授業研究の趣旨について説明がない
- 4 研究授業参観者は教室後ろの壁に張り付き
- 5 研究協議で発言する人は決まっている
- 6 次回の研究授業に成果や課題が繋がらない
- 7 教材論・教師の発問に協議が集中しすぎ
子どもを育てるために一つの教科を通して研究している意味の勘違い
- 8 子どもの学びの姿を見ていない

◇授業研究での研究協議の工夫を！

◇学びのベースとなる子どもたちにつけたい力を明確に！

◇ 授業研究での研究協議の工夫

- 1 研究授業では「〇〇がんばりカード」への記入
◎バッチリ ○ふむふむ △あれっ・ちよっど？
(がんばりカードの評価観点が話し合う共通の土台づくりとなる)
- 2 小グループで授業の良かった点・課題となる点を挙げる



(グループは各学年から1人ずつで編成する。司会記録は輪番制)
(がんばりカードに一度記入しているので話しやすい)
(グループの中では全員の発言が保証され、
一人一人の授業の見方が高まる)

- 3 グループで出てきた点を共通理解する
- 4 キーワードに絞る
- 5 キーワードに焦点をあてた話し合い (その中に自評・学年提案を入れる)

(3) 教職員用公開授業アンケート (がんばりカード)

校内研究 公開授業 アンケート (先生用)

月 日 () 時間目 授業者 年 組 〇〇 〇〇

次の項目で、あてはまると思うところに〇をつけてください

項目	評価		
◎バッチリ	◎	○	△
○ふむふむ	◎	○	△
△あれっ・ちよっど?	◎	○	△

項目の内容については、今日の授業の視点・評価を通して学年でわかっていることなど、各自が考えている。



<グループの話し合いの結果を報告する>

◇ 学びのベースとなる子どもたちにつけたい力を明確に

授業改善を通して学校改善するためには、めざす子どもの姿を共通理解することがとても大切です。研究する教科は違っていても、子どもたちが自ら学びあう学習の場をめざすことは変わりません。例えば「聞いて、考えて、つなげる学習」を学びのベースにおいて、授業づくりをすることも考えられます。このことは、すべての教科に共通であり、落ち着いたある、高まりのある学校につながっていくのです。研究する教科の特性を踏まえて考えを深める子どもたちの姿を明確にして授業研究に臨む必要性があります。



話の仕方

【やさしい話の仕方】

- ・聞き取りやすくはっきり話す
- ・伝えたいことをしぼって話す
- ・相手の顔を見て話す



話の聴き方

【温かい聴き方】

- ・顔を見て聞く
- ・うなずきながら聞く
- ・メモをとりながら聞く
- ・自分の考えと比べながら聞く



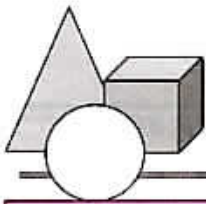
発言のつなげ方

- ・友達の名前を入れて発言する
- ・前の人意見とどんな関係なのか、立場をはっきりさせて(付け足し、賛成、反対)発言する
- ・自分の考えの中心をはっきりさせて発言する



教師の役割

- ◆子どものつぶやきを丁寧に拾いましょう
- ◆発言する子どもの周囲の子どもの動きや、発言しない子どもの動きも見とりましょう
- ◆子どもの発言をオウム返ししません
- ◆考えを深める話し合い活動をつくるためには、話し合いの論点を教師がきちんと整理することが大切です
- ◆考える場面を教科の特性を生かして必ず設定しましょう



【D：今年度の重点目標をめざして教育活動のスタート！】

事例⑦地域連携を核にした学校

経営の推進

KEY WORD

- ・地域の教育力、資源！
- ・学校も地域も前進！



地域の資源や教育力との連携を生かした学校づくりは、「地域と共に歩む学校」として大切なポイントです。恵まれた自然環境を生かした栽培活動や体験活動が引き継がれ「学校文化」として特色となっている学校の事例から学校改善を考えてみましょう。

地域を生かした教育活動

子どもの健全育成のための連携協力

- 地域にある子ども文化センター

体験を通して課題を見つけ、自ら追究し課題を見つけ、生活に生かす子を育てる

(米づくりの学習) (川の学習)

- 地域の方の協力 (学校支援)
- 地域にある大学との連携



栽培活動を通して収穫する喜び、豊かな情操を養う (大豆・サツマイモ等の栽培)

- 地域の方からの栽培指導の協力
- 新旧PTAの協力

学校関係者評価委員

- PTA役員 ■大学教授 ■地域の方
- 子ども文化センター職員 等

理解→工夫→前進

学校の取組

地域から信頼され、共に育つ学校

感謝→責任→前進

連携の成果

信頼される学校



サツマイモを植えた後で、気をつけることはありますか？
水やりはどのようにしたらよいですか？



サツマイモの学習の協力

先生も子どもたちも挨拶をよくしてくれますよ。
サツマイモの学習では、育て方でわからないことは、どんどん聞いてきます。こちら、教えるのが楽しみです。



学校関係者評価委員会での意見交換

地域の方々、学習の場を学校に提供するだけではありません。学校は、学校関係者評価委員として学習の様子を見ていただき、学校関係者評価委員会で、意見をいただくことで地域の方々の意見や考えを学校に生かしていくことが大切です。

互いに理解を深め合うための取組



保護者・地域と共に歩む学校づくりは、学校の教育活動の連携だけではありません。学校の考えや取組を保護者・地域に発信していき、理解を得ることも大切です。「学校だより」「学年だより」「保健だより」「給食だより」「PTA 広報誌」の工夫やインターネットの更新を積極的に行うことも、学校の取組状況を伝えることができます。

PTA だより (カラー刷り・B4 両面)



3ヶ月ごとに発行しています。年度最終号はB4・2枚分を作ります。

学校だより

新しい施設設備についてお知らせをしました。

地域の方との体験活動の様子についてお知らせをしました。

校内研究についてお知らせをしました。

常時、学校の様子がわかるようにインターネットの更新も心がけています。職員で声を掛け合っています。

インターネットのホームページ

